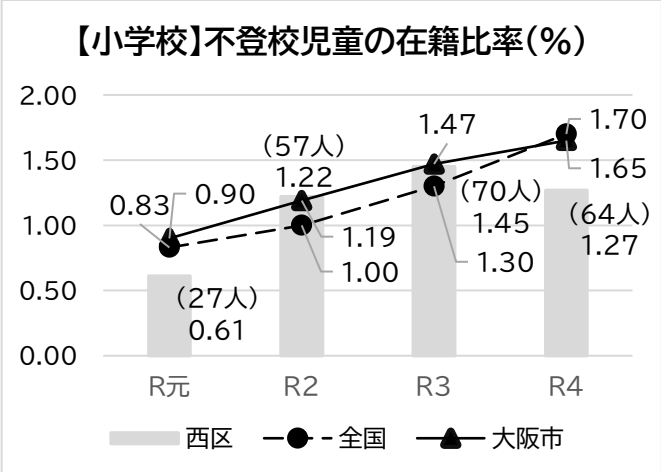
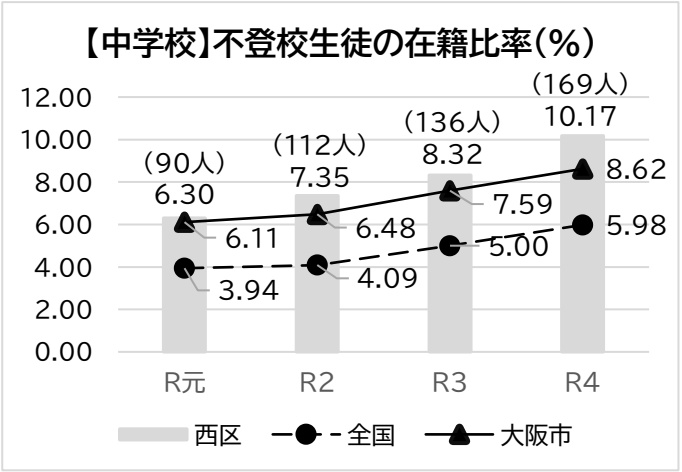
別紙1

西区不登校支援事業 概要

○不登校の現状と課題について



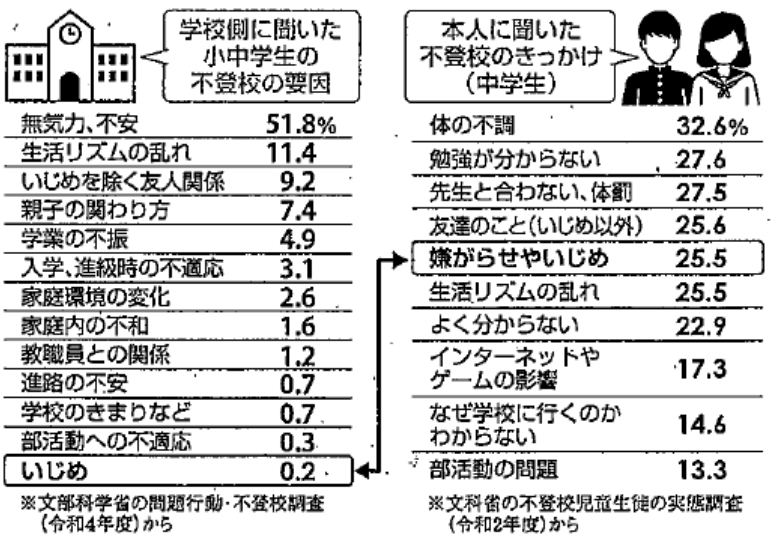


・全国の小・中学校における不登校児童生徒は、令和4年度末時点で約 30 万人(299,048 人)にまで増加し、過去最多となった。(参考:令和2年度末時点:196,127 人、令和3年度末時点:244,940 人)

・とりわけ西区中学生について、全国・大阪市全体より在籍者に占める不登校生徒の割合が高い。

・不登校の要因として最も割合の高い「無気力、不安」の生徒の中には、集団になじめなかったり、学校等の特定の場所で話せない状態になったり、漠然とした他者への怖さを抱えていることがあり、これらの生徒には、**学校に登校はできるが、教室に入れない・入りにくい問題を抱えている**。

・学校と本人の意識にズレがある



・保護者側の意識のずれ及び、情報交換できる場が乏しい

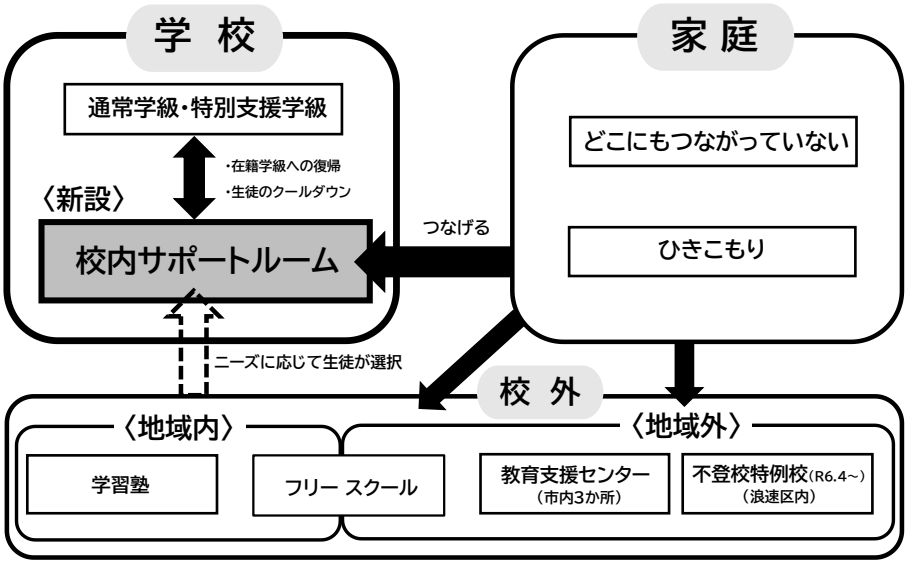
⇒安心して登校し、落ち着いた空間で学習・生活できるように**学校内に新たな学びの場(居場所)をつくり**、一人ひとりのニーズや状況に応じた支援が必要。

⇒不登校の児童生徒の保護者に対しても、不登校の子どもへの関わり方を理解してもらうことや、家庭や地域で孤立しないように支援するとともに、地域への不登校に関する理解・啓発も必要。

○課題を踏まえた、令和６年度からの取り組み

【1 校内サポートルームの新設について（堀江中学校でモデル設置）】

選択肢を増やせるよう、「居場所」を作る



【校内サポートルームでの取り組み内容】

○学習支援

→ 自学自習を基本に、生徒のニーズに応じてオンライン授業を行う。

○自立活動

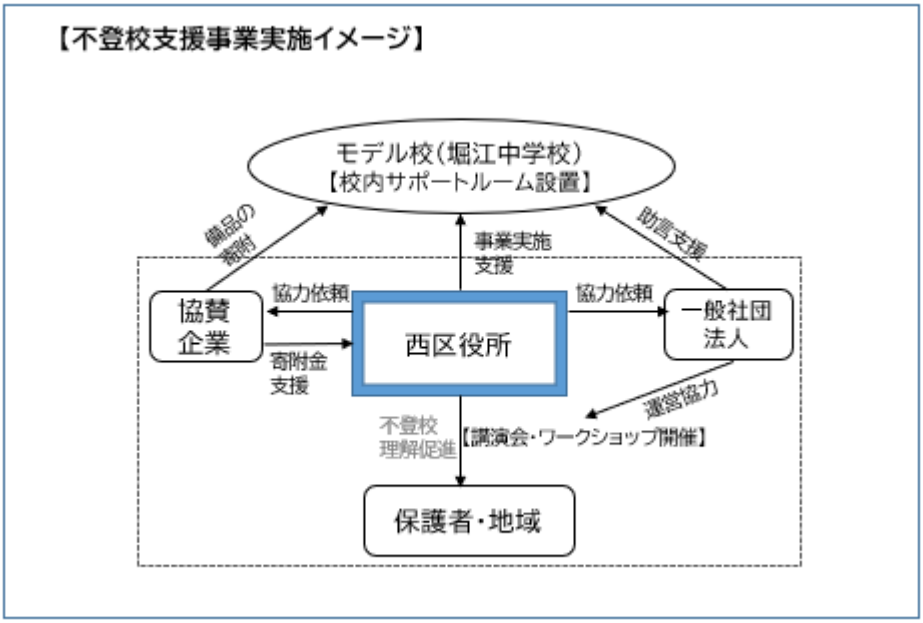
→ 様々な体験活動をとおして、ソーシャルスキル向上のための取り組みを実施。

【2 不登校に関しての講演会やワークショップの開催】

・ 不登校児童生徒の保護者が孤立せず、保護者同士がつながる場（ワークショップの開催）や、教員や地域への不登校に関する理解促進のための講演会の開催。

【3 西区不登校支援事業のポイント】

・ **学校、地域、企業・団体、行政が一体となって取り組む**



⇒ **令和7年度以降モデル実施による効果検証を踏まえ、学校数の拡充を検討。**